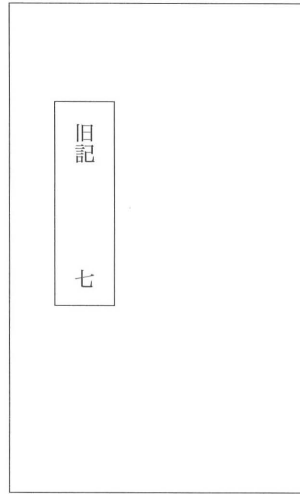


⑦旧記七（火事）

表紙



被仰付候一件

〔十三〕一、牢屋敷欠附之儀此度組合被仰付候ニ付御免願之事

〔十四〕一、火事場名主立合改可申旨被仰渡一件

〔十五〕一、欠附人足壹町より三拾人之処拾五人ニ減、雇人足ニ致候而ハ如何可有之哉之旨御尋ニ付返答書之事

〔十六〕一、焼死之者有之候ハ、御訴可申旨ニ付被仰渡之事

〔十七〕一、出火之節小火者御訴不申上、拾間余焼失者御訴可申上旨被仰付置候処、此度火方御加役より小火ニ而も御届可申旨

被仰付候儀ニ付窺并被仰渡之事

〔十八〕一、出火場野非人多怪敷候ニ付存寄申上候事

〔十九〕一、日光御 社參御留守中火用心申合之事

〔廿〕一、小菅御 成御留守中自身番勤方窺之事

〔廿一〕一、朝鮮人<sup>①</sup>至着ニ付被仰渡、其外矢来締切等之儀一件

〔朱書〕<sup>①</sup>、<sup>②</sup>の朱書傍注は省略

〔一〕一、火之元之儀ニ付御触之事

〔二〕一、類焼之町々御徒目付衆御廻り被成候哉、拝借屋敷有之候哉并火事之節穴蔵焼灰取退候様子御尋之事

〔三〕一、火事之節諸道具仕廻候度数書上之事

〔四〕一、付附組合町々覚

〔五〕一、類焼町々路次上家作相残シ屋根不致候趣御尋并返答書之事

〔六〕一、見苦敷家之分書上之事

〔七〕一、瓦葺望之者勝手次第可相願旨被仰渡之事

〔八〕一、火事場欠附之儀ニ付申合之事

〔九〕一、大伝馬町壹丁目太物店路次上屋根仕付申度願并通旅籠町・伊勢町裏店無之家作之分右同断願之事

〔十〕一、牢御屋敷近所町屋土蔵造願一件

〔十一〕一、屋根之儀漆喰土塗等之儀ニ付窺書之事

〔十二〕一、朱引欠附組合之儀ニ付差出候書付并火事之節防方之儀ニ付

〔朱書〕<sup>①</sup> 覚

〔一〕一、火之用心之儀、前々從 御公儀被仰出候通、町中家持者不及申借屋・店かり之面々共ニ昼夜無油断相慎可被申候、尤風吹之節者月行事中并家主中自身表店・裏店共相廻り、急度可被申付候事

一、火之番之儀、前々より御定之通弥無懈怠可被相勤候、尤風吹候節火之番ニ当り候面々廻り之者ニ差添、不限昼夜町中裏々迄火之用心入念候様可被申渡候、且又隣町ニ出火之節者、早速場所江欠付相働可被申候、たとへ雖為遠所風並惡敷有之節者万事差置、町内ニ而相働

可被申候事

一、月行事代り目く、二町中裏屋迄竈廻り被致、自然悪敷所於有之ハ家主中江申シ達、早速仕直させ可被申候事

一、町内家守中并店かり之内ニ湯屋・風呂屋・温飽屋・餅屋・豆腐屋・鍛冶屋・紺屋・絹練屋・伽羅油屋其外不依何ニ大火焼候商売人、別而火之元大切ニ致候様、家主中より度々心を付可被申付候事

一、消炭・藁灰入物之儀家主中より心を付、龜末成人物有之候ハ、早速仕直させ、火之元無沙汰ニ無之様可被申付候事

一、町内表店・裏店共持仏堂其外ニ而も灯明等灯候儀、家主より随分心を付可被申渡候

附り二階江紙燭等持上り候儀、かたく無用ニ可被申渡候

一、町内大梯子・手桶・水溜桶并火之消之類・用心井戸等切々心を付、破損出来候ハ、早速修復を加可被申候事

右之通町中家主中五人組切ニ申合互ニ吟味致合、火之用心之儀随分大切ニ入念、昼夜無油断可被申付候、以上

正徳四年午十一月

名主

一、町内裏店有之候家ニ毎夜暮時より炉路番差置可被申候事

一、前々より御定之通、夜中四時已来往來之人數ニ応し送り拍(出)子打候様、番人共ニ可被申付候事

〔朱書〕  
一、以書付申上候

一、町方之者共類焼ニ逢候以後、御徒目付衆・御小人目付衆御出被成、

類焼之町数等御吟味被成、御見分御座候并類焼之町内拝領屋敷有之哉与御尋被成候事

一、類火ニ逢候町人之内、宜商人者商売物穴藏江おもニ仕廻置候ニ付、火

事以後若雨天有之、商売物濡シ候而者夥敷損毛之儀御座候間万事差置、其砌早速焼灰等取退、穴藏之上小屋掛いたし商売仕候者も御座候、又者土藏ニ而事足候者者当分之差懸致し、藏之内ニ而商売仕候者も御座候事

右之通御尋ニ付、拙者共支配之町々類焼仕候節之様子書上申候、外ニ相替儀無御座候、以上

享保三年戊九月

大伝馬町

名主 勘解由

本石町

同 伝左衛門

通壺丁目

同 藤次郎

右之通九月廿七日奈良屋江式通差出候

〔朱書〕  
一、以書付申上候

一、去酉正月より極月迄火事ニ付、町人共道具仕廻候儀

凡式三度より五度程

一、当戌正月より十月迄同断

凡壹度より三度程

一、風立候節者商売物計差置、外之道具者仕廻申候、大風之節ハ商売物

共三不残仕廻申候、尤十月より末三至候而者少々風立候而も人々為用  
 心之仕廻置申候ニ付、員数之儀者難申上候  
 右之通御尋ニ付、大概以書付申上候、以上  
 戌十月

本石町

伝左衛門

大伝馬町  
 名主 勘解由

本舟町

太郎兵衛

同

小網町  
 伊兵衛

北新堀町

同 又右衛門

通巻丁目

同 藤次郎

室町

同 助右衛門

本両替町

同 八郎右衛門

右者十月四日樽屋江差出

〔朱書〕  
 「四」 石餅印

欠附組合之覚

大伝馬町壹丁目 同塩町 堀留町 伊勢町  
 本町四丁分 本銀町四丁分 鉄炮町 本革屋町  
 駿河町 室町三丁分 本両替町 北鞘町  
 瀬戸物町 小田原町貳丁分 本町三丁目裏川岸

本船町 品川町 同裏川岸 岩附町  
 安針町 長浜町貳丁分 金吹町 本石町四丁分  
 以上三十六町

丸二印

南ハ日本橋を限り 南ハ小網町辺・箱崎町・北新堀辺  
 北ハ本銀町川通限り 北ハ亀井町・大伝馬町辺・小伝馬町壹丁目を限  
 西ハ常盤橋御堀端限り 西ハ甚左衛門町・大坂町・住吉町・難波町辺  
 東ハ伊せ町川通・大伝馬町 東ハ浜町川通を限  
 鉄炮町・塩町を限り 此場所川を隔候得ハ一仕切之積り

丸二印

大伝馬町貳丁目 通旅籠町 下舟横町 亀井町 小伝馬町三丁分  
 同上町 通油町 新大坂町 元浜町 田所町  
 新材木町 富沢町 長谷川町 難波町 住吉町  
 高砂町 新和泉町 堺町 吹屋町 甚左衛門町  
 堀江町四丁分 同六軒町 新乗物町 箱崎町 北新堀町  
 小網町三丁分 下舟町三丁分 以上三十七ヶ町  
 戌十二月

〔朱書〕  
 「五」 口上

一、当二月十四日類焼之町々小屋作路次之儀、三尺ニ而も四尺ニ而も左右  
 家作を相残し、路次之上ニ屋根不仕差置候而も迷惑ニも不罷成候哉与  
 御尋被成候、家並路次之儀表口之往来之道ニも御座候間、屋根不仕

差支有御座間敷奉存候、被仰付候ハ、無異儀右之通家作可仕、為其名主共判形仕差上申候、以上

享保四年亥二月廿五日

当二月類焼之町々

名主  
月行事 共

口上

一、当二月廿四日類焼之町々家作路次之儀、三尺ニ而も左右家作を相殘シ、路次之上屋根不仕差置候而も迷惑ニも不罷成候哉与御尋被成候、町屋路次之儀、所々より家建続ケ路次上を二階ニ仕、商売等差置申度儀も御座候、尤家主方江右之宿代等も取来候間、ケ様之場所ハ店かり・家主共少々迷惑奉存候得共、過分之儀ニ而無御座候間、被為仰付候ハ、無異儀右之通家作可仕候、為其名主共判形仕差上申候、以上

亥二月廿五日

本町四丁目

文左衛門

紺屋町

勘兵衛

雉子町

市左衛門

本草屋町

忠左衛門

月行事

太郎右衛門

本銀町

利左衛門

鍋町

次郎兵衛

松田町

作右衛門

金吹町

月行事

鎌倉町

平次郎

市郎兵衛

六左衛門

佐柄木町

弥太郎

三河町

彦助

神田はたご町

善左衛門

佐久間町

仁左衛門

同町

権左衛門

本石町

伝左衛門

下谷長者町

源右衛門

上野町

源八

覚

一、大伝馬町

名主 勘解由

一、本船町

同 太郎兵衛

一、万町

同 小左衛門

一、小網町

同 伊兵衛

一、堺町

同 五郎兵衛

右用事有之間、只今早々奈良屋所江可被參候、遅々有間敷候、以上

二月廿五日

町年寄三人

右ニ付罷出候処、火事之節防之為メ家作改様も可有之候哉、委細存寄書上可申旨被仰渡候処、家作ニ付火除ニ罷成存寄無御座、依之年番同役中より返答被申上候

口上書を以申上候

一、前々類焼之場所町屋路次之上屋根仕付候所者当分其通りニ差置、重而本普請之節路次之上屋根取払可申旨被仰付奉畏候、就夫大伝馬町壺丁目之儀者、表店ニ罷在候商売人共店並間口六尺七尺或者式間を限住居仕候故、古来より町中路次之上ニも二階仕住居仕来候、右町内去ル酉三月廿三日類焼以後小屋掛同前之本普請仕候ニ付、重而普請仕候節も路次之上屋根不仕候而者家主・店かり共殊外迷惑仕候、右町内者裏店無数裏者過半土蔵ニ而御座候ニ付、重而普請仕候節も只今迄之通、路次之上屋根・二階共作込家作仕度由、家持・店借り共奉願候、依之以書付申上候、以上

享保四年亥三月五日

名主 勘解由

右之通相認、奈良屋殿江出ス

口上書を以申上候

一、前々類焼之場所町屋路次之上庇有之分并鴨居計有之分茂取払可申旨被仰付奉畏候、就夫私居宅入口之門雨覆之屋根御座候、右雨覆取払候而者戸口締り無御座、不用心ニ御座候而殊之外迷惑仕候、右門内ニ借地無御座、私住居計ニ而御座候間、門之戸雨覆取払之儀、御救免被成下候様奉願上候、以上

享保四年亥三月六日  
右口上書ニ屋敷絵図相添、奈良屋江致持參候

大伝馬町式丁目

名主 勘解由

乍恐以書付奉窺候

此度家作之儀路次之上ニ屋根不仕、并路次之口を戸計ニ可仕段被仰付奉畏候、就夫 御成御道筋之町々路次之戸口計ニ仕候而ハ見廻り申儀も難仕候得共、裏屋二階より不計見越候茂無心元奉存候ニ付、御道筋之町々并御見通シ之町々者、路次之戸之上ニ只今迄之通矢切等被仰付被下候様奉願候、以上

本町壺丁目より本所堅川通御道筋町々

名主共

享保四年亥三月

右之通 御成御道筋申合相願候処願相濟不申由、三月十九日奈良屋ニ而被仰渡候

乍恐以書付奉窺候

一、此度家作之儀ニ付、路次通り庇仕間敷旨被 仰付候段奉畏候、路次ニ屋根無御座候而、路次口ニ戸を不被仕唯今迄御座候而者、風吹候節ハ路次之戸を締、裏々江猥二人出入不仕候様ニ仕、宵之内者路次番を附置、裏店之者仕廻申候得者路次之戸を締改候而仕廻申候処、戸計仕候而も屋根無御座候而者、夜中海道より戸之上を越候而も裏々江入易御座候ニ付、盗人等も忍入申候得者付火なとも無心元奉存候、色々不用心成義共可有御座候様奉存候ニ付、御慈悲ニ只今迄之通御免被成下候様奉願上候、以上

享保四年亥三月六日

町中

町人共  
名主共

右之通年番名主中より 御番所江差上候

〔<sup>朱書</sup>一六〕 見苦敷家之覺

大伝馬町式丁目

一、二階作り板屋根

家主 孫兵衛

右之小屋、住居難仕躰ニ相見申候ニ付、家主相尋申候得者当七月普請可仕由申候、此外拙者支配ニ見苦敷家見え渡不申候、以上

享保四年亥五月廿六日

名主 勘解由

右之通式通相認、喜多村江差出申候、尤此外差板・差藁之類少々ツ、修復之儀者書上不申候而不苦由被申聞候

〔<sup>朱書</sup>一七〕

一、享保五年子二月十七日喜多村より御配府ニ而本石町・大伝馬町・鉄炮町・室町・本両替町・小網町・北新堀町・通壺丁目・南伝馬町三人之内耆人、竹川町・弥左衛門町、右町々名主中可被出由ニ付拾耆人罷越候処、先年酉年大火事以後町中瓦葺之儀自然与相止候、此以後瓦葺之儀望候町も有之候ハ、願可申由被仰渡候、右同役人数之外平右衛門町・浜町・湯島町・神田須田町、右町々同役中も被出候事

以書付申上候

一、町屋之儀瓦葺仕度存寄も有之候哉、町人共遠慮候も難計候間、相尋可申旨御尋御座候ニ付承候処、先年者瓦葺ニ御座候由、其節者飛火ニ而類火も無数御座候由承伝申候、六十年以前酉年大火事以後度々類火ニ而、町々家持共困窮仕候故自分ニ而家作不仕、地借之者共方ニ而家作仕候得者是又度々類焼故、板葺さへ不及力町々多御座候、段々茅葺ニ仕り候仕合ニ御座候得者、瓦葺仕候儀不及儀ニ奉存候由町人共申候、尤五町十町ニ壺つ式つ宛塗屋作候者も御座候得共、壺丁与塗屋ニ作り候者も無御座候、近年者家持・地かり等も渡世心易送り候者も無数御座候、瓦葺仕候へ者柱・棟木等丈夫ニ立不申候得者瓦葺不被申候故、力ニ不及罷有候由申候御事

享保五年子二月十九日

町々  
名主共

右之通喜多村江返答書差出ス

〔<sup>朱書</sup>一八〕

御相談之趣書付を以御同役中江窺之候事、思召寄之儀共御書加可被遊候、於御得心者銘々御支配之町衆江得与合点被致候様可被仰渡候

同役申合之覺

一、銀町土手前後・柳原土手前後飛火防候組合之町々、火事出所ニより同役差図可有之候、然上者遠方江駆付候ニ及申間敷候事

一、日本橋川両向・四日市広小路同断之事

一、火事場ニ而消口を取、札建候ニ不及事、此儀ニ付争論有之候事

一、消仕廻候而屋根之上ニ而申合手を打候儀無用可仕候事

一、先達而消留候所江跡より来り登申間敷候、此段附参候月行事見計申候而風下江廻し幾重ニも並罷罷在防可申候、行事差図不請人足罷歸

り、其支配名主江相達可申候了簡可有之事、火事場ニ而同役見廻り手前之支配之人数ニ計附候儀ニ而者無之候、(兼)村々ニ無之様自他之無差別下知を可致候事、火之元隣町相廻り同役中為申合人数為働候事專

一二候

一、火消候ハ、早く人数引退可申候事、町中より出候人数者御支配之一所之儀ニ御座候得者、相互ニ争論可仕義ニ無之候間、此旨支配くニ而兼而心得為致置可申事

一、梯子持歩行候共前後之木口をかつき往来之衆中江突当不申候様常々申付、行事世話致召連可申候、場所ニ而も取わけ同断之事

一、何方ニ而も十五町程もへたて候場所ニ候ハ、跡火消之格人数出し行事か火消番を相添、同役者不及出候、此時者朱引限之同役場所ニ而集候人数下知可加事

一、駆付人数火事場ニ而火しめり候而も無益之小屋を潰候族此間及見候間、ケ様之仕形無之、構無之小屋者用捨致候様常々可申付候、御役人方も多場所江御出候ニ付、罷出候行事并人数之分相慎可申儀第一ニ存候、行帰ともさわき不申候様仕可申事

子二月廿三日

外

一、同役衆羽織ニ白キ半襟り掛申度候、町人者又者駆寄候人数之外者格

別、火事場江白半衿懸候儀者遠慮いたし候様、其御支配之同役方より可申渡候、左候ハ、白キ半衿者同役与兼而知り可申哉如何可有御座候哉及御相談候

一、火消人足之内ニ抱鳶之者有之様相見え候、公儀思召相叶不申、不宜相聞申候間、重而鳶之者抱置被差出候事御用捨可然候、場所ニ而同役中之内若見合候ハ、御断可申事

一、紛失物御触有之節、町々吟味仕方不同ニ而不宜候、質屋・古着屋者不及申、表店・裏店・出居衆・召仕等迄詮義之上、委細商売人者不及申及申人衆・医師衆迄も不残相触、連判ニ而も取置候様仕度候

〔(朱書)九〕 大伝馬町壱丁目太物店路次之上屋根仕付申度願ニ付、以書付奈

良屋殿江絵図・訴状を以四月三日御願申候処、同七日御配府ニ而右同所江被召呼、太物店之儀間口狭格別之儀ニ候間前々之通普請可仕由被仰渡候、右願状左之通

以書付申上候

一、町屋路次之上屋根仕付候処、普請仕候節路次之屋根取払可申旨、去亥三月被仰渡奉畏候、就夫大伝馬町壱丁目之儀者此度類焼仕、小屋掛前之本普請仕候ニ付、路次之上屋根取払候様申渡候所、右町内店借之者共申候者、私共儀古来より店並間口狭御座候ニ付、町中家並表店之内を土間ニ仕商売場所用候、町内者裏店無御座、裏者不残土蔵ニ而御座候ニ付、土蔵口江之通ひニ仕、右土間之所ニ穴蔵等御座候間、屋根無御座候而者土蔵旁難儀仕候ニ付、此度も前々之通路

次之上屋根仕普請仕度段、家持・店借共一同奉願候、依之別紙絵圖差上申候、御慈悲ニ願之通被仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

享保五年子四月

大伝馬町  
月行事 源右衛門  
同 儀右衛門  
名主 勘解由

右之通式通相認、奈良屋殿江四月三日相願候得者、同七日右同所ニ而前々之通普請可致旨被仰渡候

乍恐以書付申上候

一、町屋路次之上屋根仕付候所、重而普請仕候節路次之上屋根取払可申旨、去亥三月被仰渡奉畏候、然ル処拙者共所持之家屋敷此度類焼仕、小屋掛同前之本普請仕候ニ付奉願候者、拙者屋敷之儀裏店無御座、裏者拙者共居宅ニ而路次を門に用ひ申候ニ付、屋根無御座候而者以之、外迷惑仕候間、屋根仕普請仕度奉願候、依之別紙絵圖仕差上申候、御慈悲願之通被仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

享保五年子四月

通旅籠町  
家持 道 忠  
名主 勘解由

右書付絵圖相添、四月廿九日奈良屋江差出相願候処、六月六日同所ニ而願之通被仰付候

乍恐以書付申上候

一、町屋路次之上屋根仕付候所、重而普請仕候節路次之上屋根取払可申

旨、去亥三月被仰渡奉畏候、然所拙者共所持之家屋敷此度類焼仕、小屋掛同前之本普請仕候ニ付奉願候者、拙者共屋敷之儀裏店無御座、裏者土蔵ニ而御座候ニ付土蔵江之通ひ道仕候処、屋根無御座候而ハ以外迷惑仕候間、屋根仕普請仕度奉願候、依之別紙絵圖差上申候、御慈悲ニ願之通被仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

享保五年子四月

伊勢町家主  
願人 八右衛門  
同 六右衛門  
同 九兵衛  
同 七左衛門  
同 五郎左衛門  
名主 勘解由

右之通書付式通、絵圖一枚ツ、相添、四月廿九日奈良屋江差出候所、五月六日願之通被仰付候

一、通旅籠町右同文言ニ而相濟申候

通旅籠町家主  
願人 久兵衛  
同 藤兵衛  
名主 勘解由

〔采書〕 牢屋鋪近所土蔵造願一件

一、享保五年子四月四日奈良屋より御配府ニ而、此方并小伝馬町又四郎殿代・鉄炮町惣八殿・亀井町源之丞殿・紺屋町三丁目弥左衛門殿一同罷出申候処、大伝馬町巷丁目新道通りより油町川岸通亀井町川岸迄、鉄炮町より塩町土手前迄、此間絵圖被仰付左之通仕立差上申候処、



同六日小伝馬町・鉄炮町・此方御配府ニ而奈良屋江被召呼、塩町牢屋前通拾間通り普請延引可仕旨被仰渡候、尤鉄炮町も右同断、小伝馬町老丁目者北側通、同所上町も拾間通右同断、但土蔵作之願ニ而も候者其段書付を以御願可申由被仰渡候ニ付、同七日左之通願状相認、奈良屋江式通差出候

乍恐以書付申上候

一、私共所持之家屋鋪拾間通、三分家作差扣候様被仰渡奉畏候、就夫自然御用地ニも被召上候得者、私共数年罷在候住所相離候儀心之外迷惑千万奉存候、其上土蔵・穴蔵等取払候儀困窮之上旁迷惑至極仕候、依之奉願候ハ町屋拾間通之分土蔵ニ仕、家主・店借共唯今迄之通右土蔵之内ニ而商売仕度奉存候、以御慈悲願之通被仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

享保五年子四月

大伝馬塩町吉三郎家守  
久左衛門  
権五郎家守  
茂左衛門  
三郎助家守  
新六  
利左衛門  
家持  
伝左衛門  
鉄炮町  
宗七家守  
次右衛門  
山三郎家守  
太郎兵衛  
新兵衛家守  
武左衛門  
小伝馬町式丁目  
三右衛門家守  
五兵衛  
小伝馬上町  
久兵衛  
佐平次家守

右之通式通相認、奈良屋江差出ス

五郎兵衛家守 次左衛門  
家持 又右衛門  
名主 勘解由  
同 宗八  
同又四郎代 五郎兵衛

〔保書〕  
十一 板葺屋根漆喰ニ茅・藁葺屋根土塗之儀先達而御尋ニ付、以書付御返答申上候処、薄成共塗可申旨被仰渡奉畏候、依之存寄候義以書付奉窺候

一、弱キ屋根江土厚サ式寸計ニ仕候而も干割可申候間、厚サ三寸より内ニ而ハ猶以割レ強ク土持兼可申候

一、先年茂雨天之節も土流落不申候様ニあて行仕、軒口ニも土持たせ等仕候へ者、猶以入用も相掛り時々修復等も相加申候間、下々裏々之者共難儀仕候

一、土之儀、唯今之土沓艘ニ而者九尺四方ならてハぬられ不申候、右代物も七八百文も相掛り、其上すさ手間等相加り申候

一、板葺屋根漆喰之儀、大躰ニ仕沓坪ニ付金沓分宛も可仕候、其上当年中ニ町屋共塗申候様ニ而者直段も殊之外高直ニ可罷成候、屋根塗申候而者湿気も御座候得者呉服物商売之者等者難儀仕候

一、屋根塗申儀、飛火之為ニハ可然御座候得共、所ニより土蔵を隔、火を防キ申候節、柿葺与違足溜りも無御座候間難働仕御座候

右両様之儀町人共相尋候所、火之防ニ罷成候儀ニ御座候間、奉願候而も塗申度候得共、当分類焼之町々多御座候得者、諸色高直ニ御座候間差支候由申候ニ付、乍恐拙者共奉存候而、兼而心掛ケ段々塗候様仕候ハ、自然与塗屋又者板葺も漆喰ニ出来可仕哉与奉存候、小屋を掛直シ候歟又者板屋も塗下地ニ仕候様ニ、銘々心掛ケ候ハ、出来可仕与奉存候、当年中ニ限候ハ、漆喰并土者不及申すさ藁等も高直ニ罷成可申候、殊ニ此度之類焼ニ付、当年中来年迄も御屋敷方御普請も初り候ハ、弥以諸色手支申候故、自然与高直ニ御座候得者、時節悪敷御座候ニ付、町中一同不仕候而も、石炭（炭）又ハすさ藁等も此度之類火ニ付一入払庭故、打続高直ニ可罷成与奉存候、何卒段々ニ心掛ケ塗屋ニ仕候様被為仰付候ハ、如何可有御座候哉奉窺候、以上

享保五年子四月十五日奈良屋殿江差上被申候、右同月廿日町中塗屋或者瓦屋根勝手次第可仕旨御触御座候、右之通鉄炮町貳宗八郎殿より写来

〔採書〕  
「十二」 以書付申上候

一、先達而被仰付置候朱引組合之儀、唯今迄之通町々入組不申組合申候而宜御座候哉、又々町々入組候而も名主支配之分者一組合ニ入候而宜敷御座候哉之儀御尋ニ御座候、右両様之儀名主支配入組候而組合被仰付候而も、申合之儀、於火事場ニ者他之支配之名主差図をも請、相働申候様兼而被仰渡、何茂其段相心得罷在候間、名主之支配他組江入組候而も差支申候儀無御座候、名主之支配切組合町々入組候而者却不勝手ニ御座候間、只今迄之割合之通場所入組不申候様被仰付

候得者、場所江欠付次第何レ之町々之人数ニ而も、無差別差図仕相働候様猶又可申合儀ニ奉存候、以上

子七月十二日

惣町中

名主共

右者七月十一日奈良屋より名主拔々被招呼被仰渡候而、以書付致返答候様ニとの義ニ付、所々年番名主其外差加り致相談候上、右之通同十二日右同所江差出ス

一、火事之節防方之儀ニ付、去々年組合相極候処、他組江も入交り候ニ付場所込合、組合茂致混雑人数散々ニ成、防方不宜候間、此度組合を割直し絵図相渡候間其旨可相心得候、且又町人足目印之為、町数之組合多少ニより纏式本或者沓本申付、防方之掟別紙相渡候間、小旗書記沓本宛相添可申候、右組合之絵図与纏ニ有之吹流し之書付引合見候而、常々も覚居候様可仕事

一、右目印之纏・掟小旗之儀者、組合之名主共申合勝手能方ニ差出置、火事有之時分、組合之内境目風筋悪敷場所江早々持参仕候而建置可申候、組合之町々之者右纏を目印ニ致、早速一所ニ欠集り、火移不申候様防可申事

附り火事之節組合切ニ火防、他之組合江堅参間敷候事

一、出火之節、武士屋敷江一切人足罷越間敷候事

一、当春相触候飛火防として、組合ニ無構所々江人数差出候事向後相止候事

一、出火之節、火元江者風上式丁・風脇左右式丁宛都合六町之者共、前

方相触候通、早速欠集り消留可申候事

但右六町之内ニ而も、組合之外ニ而者火元江欠付候ニハ不及候事

右之趣町々名主共委細相心得、町人共江具ニ申聞相守可申候、若違背於有之者可為越度候

子八月

かねさし五尺

紙吹

- 一、組合之町中ニ火事有時者可欠集事
- 一、組合之外ニ火事有之候而、組合ノ之町江風筋悪敷時者境目ニ集り可防事
- 一、役人下知なき内組合之外江一切参るましき事

は組職之図

人数改御役人

ろ組御役人

中出

加藤勘助様

大岡

由比助九郎様

紙吹

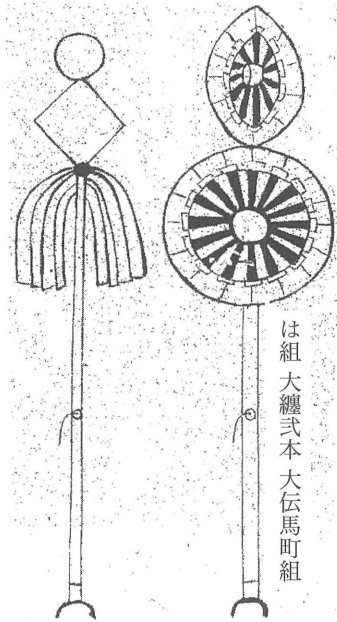
東ハ亀井町より難波町まで  
 南ハ難波町より松島町・小網町三丁目に限  
 西ハ小網町三丁目より大伝馬塩町まで  
 北ハ大伝馬塩町より亀井町に限  
 此組合四拾七町

かねさし七尺

吹流図

右組合千百三拾六人  
 但二組ニ分レ申候

は組 大纏式本 大伝馬町組



(口絵3参照)

〔採書〕十三 以書付申上候

一、前々出火有之、牢屋江風筋悪敷節私共町々より人足差出申候、就夫此度欠付組合御改被仰付候ニ付、牢屋も場所之内ニ籠り候故、風筋悪敷節者組合欠付之者共不残差出申候ニ付、外ニ私共町々より牢屋江人足差出候儀御救免被成下候様奉願候、併人足差出不申候而難叶儀ニ御座候者、私共組合より人足百人成共百五拾人成共相別レ、町々より順番牢屋江差出候様被仰付被仰置候様奉願上候、以上

享保五年子九月

小伝馬町

名主 又四郎

鉄炮町

名主 惣 八

大伝馬町

同 勘解由

右者九月十日奈良屋江差出ス

〔採書〕十四 出火場名主立合改之事

一、先頃堀江町式丁目出火之節、名主庄三郎并五人組火之元吟味之儀ニ付不埒有之、牢舎申付候ニ付、名主共庄三郎出牢之儀度々相願、向後勤方之儀も申出候趣有之ニ付、庄三郎・五人組共ニ牢舎差免候、就夫自今者名主共向寄ニ三四人宛組合定置、左ニ書付認相渡候通相

守り可相勤事

一、第一火之元大切ニ申付、風立候ハ、組合候名主申合番等殿敷いたし、先達而申渡置候通、附火致候者勿論怪敷軈之者も候ハ、召捕可訴出事  
一、出火有之者、前々より申付置候通人足召連早速欠附打消、大火ニ不成様常々可心懸事

一、火元之儀、大火者勿論燃立不申出火ニ而も、附火之筋ニ相見ヘ其町内ニ怪敷軈も有之候ハ、組合之名主共立合五日之内遂吟味、其品奉行所江可申出候、未熟ニ致附火を自火ニ紛かし、後日ニ役所ニ而詮儀之上右附火致候者も支配之者ニ有之ハ、其名主ハ不及申組合之名主ニ至迄曲事ニ可申付事

但自火ニ相極り拾間之内焼失之分、最前相触候通訴出ニ不及候事  
右之趣令承知、自今不埒無之様組合之名主者相互ニ入念可申合候、未熟之名主茂候ハ、組合者勿論他之組合ニ而も名主仲ヶ間より書付封シ候而、両番所之内蜜々ニ可差出者也

六月

〔朱書〕  
十五

一、享保六年丑正月八日呉服町より築地辺迄火事之節、三拾人火消欠付人足不働之由ニ而、奈良屋市右衛門殿江年番名主被招呼被仰渡候者、欠付人足之儀耆町より三拾人宛罷出候を拾五人宛ニ減シ候而成共、雇人ニ致候ハ、場所ニ而之働も可然候哉、左様致候而ハ如何可有之哉  
与御尋ニ付、寄合之上ニ組限相談仕、存寄書年番名主中江差出申答

相極、左之通之書付年番名主中へ同正月廿四日差遣申候、翌廿五年番より奈良屋江被差出候筈

口上之覚

一、欠付人足之儀、致雇耆町より拾五人宛差出候而者如何可有之哉与御尋ニ御座候ニ付、は組一同寄合致相談いたし候所、町人共申候者、年々困窮之儀ニ御座候ニ付、欠付人足雇候而差出候儀何共迷惑奉存候由申候、尤此以後出火之節、町々名主方より致吟味、場所ニ而人数散不申随分出情働候様可申付候間、此段各様より町年寄衆江御返答被仰上被下候様組合町人共不殘申候、以上

〔朱書〕  
正月廿四日

〔朱書〕  
十六 覚

一、当月三日四日出火之節焼死候者有之候ハ、早速 御番所江御訴可申旨御触ニ付、拙者共町内吟味仕候処、右両日火事場江罷越焼死候者耆人も無御座候、為御断一札差上申候、以上

享保六年丑三月七日

大伝馬町 八郎兵衛  
月行事  
同塩町 清右衛門  
同 伊兵衛  
通旅籠町 伊兵衛  
堀留耆丁目 忠右衛門  
同 市兵衛  
同 式丁目  
伊勢町

同 弥兵衛

未十二月四日

〔朱書〕十七 以書付奉窺候

一、町中ニ而出火有之節者御訴之儀、小火之分者自今御届申上候ニ不及、拾間余之焼失ニ候ハ、御訴可申上旨、享保七年寅十一月御触有之、今以右之通相心得罷在候、然ル処此度火方御加役三宅弥次左衛門様より被仰渡候者、町方ニ而少ニ而も出火有之候ハ、早速御訴可申候、品ニより御見分をも可被遣旨御書付を以被仰渡候、弥次左衛門様江御届申上候節者、御支配之儀ニ御座候得者御番所江も御訴可申上候哉、左候得者先年被仰付置候御触与相違仕候、此儀間違も可有御座哉与奉存候ニ付、以書付奉窺候、以上

未十一月

年番 名主共

下札

本文ニ申上候通、寅年御触以後、小火之分何れ之御役所江も御届不申上候、併拾間内之出火ニ而も、場所江御役人様方御出被成、出火之様子場所絵図書付差出候様被仰付候得者、絵図書付差上申候、左も無御座候得者此方より御届申上候儀無御座候

右之通樽屋・奈良屋・喜多村三ヶ所江相伺候得者、御奉行様江御伺被成候処、先ツ年番名主共直ニ弥次左衛門様御役所江申上候様被仰渡候ニ付、同十二月四日弥次左衛門様御役所江御伺申候得者、右出火御届之儀手あやまちニ相極候ハ、訴ニ不及候、少しニ而もあやしき筋ニ候ハ、可訴出旨被仰渡候、其節罷出候名前左之通

鎌倉町	平次郎
神田紺屋町	伊兵衛
万町	小左衛門
本湊町	長兵衛
神田多町	権左衛門
本郷三丁目	八兵衛
上野町	源八
白山前町	勘七
本所吉田町	善右衛門
駒込片町	八左衛門
深川平野町	甚四郎
元飯田町	五郎兵衛

右弥次左衛門様ニ而被仰渡候趣年寄衆三人江申候処、右之趣書付指出候様被仰渡候ニ付、左之通差出候

以書付申上候

三宅弥次左衛門様より先達而少之出火ニ而も御届申候様御書付を以被仰渡候、此儀先年之御触も御座候ニ付、心得違も可有御座哉与奉存候ニ付、御奉行様江御窺被下候様申上候得者、弥次左衛門様江御伺申上候様被仰付候ニ付、則御伺申上候処、先年之御触書之儀も御存知被遊候得共、右被仰渡候出火届之儀者あやしき筋計之御届ニ而、手あやまちニ相極候ハ、御届申上候ニ不及旨被仰渡候、依之書付を以申上候、以上

未十二月

年番 名主共

右書付差出候得者、左之通奈良屋殿ニ而被仰渡候

- 一、先達而出火届之儀、あやしき筋ニ候ハ、可訴出旨弥次左衛門様ニ而被仰渡候、此儀 土佐守様御直ニ弥次左衛門様江御対談被遊候処、あやしき火ニも弥次左衛門様江御届ニ不及候、前々御触之通相心得可申旨被仰渡候、依之年番名主中より同役組合江通達有之候事

〔宋書〕 十八 乍恐以書付申上候

- 一、此間所々出火之節私共欠付申候処、出火場所江何茂禪身ニつゞれ等まとひ候而多く相集り申候、此者共ハ皆野非人ニ而御座候ニ付怪敷奉存候、此節所々出火御座候ニ付、右之段無心元乍恐存寄り申上候、以上

寛保元年酉十二月

名主共

〔宋書〕 十九 日光御 社参御留守中火之用心勤方申合之覚

- 一、町々木戸并締切之事、但横町木戸無之所者仮矢来致置可申事
- 一、欠附人足目印はつひ有来候を用、不足分ハ足シ可申候、尤人足・月行事勤方之儀十組申合大切相勤可申候
- 一、番手桶間数ニ応し有来を用、不足之所拵可申候
- 一、昼夜共二階江火を上ケ候儀堅無用之事
- 一、附り二階ニ持仏堂有之候共一切焼明上ケ申間敷事

- 一、念仏講・題目講・讚儀講積、惣而人集物さわかしき儀無用、尤大かね・太鼓打候儀堅無用之事

- 一、湯屋・豆腐屋・うとん屋、惣而大火焚候類、明ケ六時より暮六時を限り仕廻、夜中者焚申間敷候

- 一、家主股引ニ而相勤可申事

- 一、町々表裏共明地囲、用心悪敷所入念可申付事

- 一、町々自身番前、出あんとん差置可申事

但木戸ニ高挑灯出候儀仕間敷候事

附り中番軒下ニ差置可申事

- 一、御留主中町々家主昼夜共他出堅仕間敷候、店借も暮六時より明ケ六時迄他出無用之事、但無抛用之者者家主江申達名主江相届帳面ニ付差函次第可致候事

右之通年番共寄合之上申合候、以上

申三月十三日

〔宋書〕 廿

- 一、小菅御 成御逗留中、町々ニ而自身番可仕哉と今朝奈良屋殿江御窺申上候処、急度自身番与申事ニ而者無之、月行事・火ノ番等昼夜無油断相詰、火之用心申付候様被仰渡候、此段御通達仕候、以上

十月十九日

〔朱書〕  
「廿一」

- 一、享保四年亥八月十三日喜多村殿より御配符ニ而、本石町伝左衛門・平右衛門町平右衛門・湯島町六右衛門・三河町壹丁目彦助・元飯田町五郎兵衛・本船町太郎兵衛・北新堀町又右衛門・弥左衛門町伊左衛門・宇田川町弥兵衛・本所緑町長兵衛被招呼被仰渡之覺
- 一、朝鮮人之信使<sup>劉</sup>至著近寄候間、右御用掛り御役人方音物振舞等無之様、当五月十五日相触候通弥被相心得、猶又未々迄為申聞、此旨向々江可被申通候、以上

亥八月十三日

依之右之趣東方江廻状差出候

享保四年朝鮮人来朝ニ付如斯御触、九月廿四日樽屋藤左衛門殿ニ而被仰渡候御書付之趣

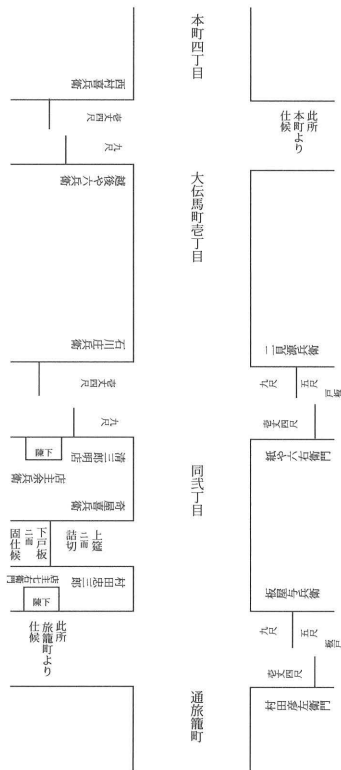
朝鮮人来朝之節御固

- 一、本町四丁目より大伝馬町式丁目迄、与力衆壹人、同心衆貳人
  - 一、通旅籠町より通油町迄同断
- 登城之節

- 一、通旅籠町、与力衆壹人、同心衆三人
- 一、大伝馬町式丁目、同断
- 一、同壹丁目、同断

朝鮮人至着亥九月廿七日昼九時、当日四時より人留、御固御先手倉橋三左衛門様御組御与力淵辺百助様・同赤井団八様御同心衆大勢御町御固、

本町四丁目より大伝馬町式丁目迄御与力加藤甚助様御同心衆御兩人、通旅籠町より油町橋向迄柴田此右衛門様御同心衆御兩人、当日名主・月行事麻上下、其外町人店主羽織袴、同十月五日吹上三而曲馬被仰付候、御与力石堂平右衛門様・上坂安左衛門様御同心衆速水治兵衛様・井野伊兵衛様・長谷川岸右衛門様・衣立喜左衛門様本町壹丁目より大伝馬町壹丁目・式丁目迄御固被成候、尤人留ニ而ハ無御座候、通旅籠町御固御与力吉田十郎兵衛様・三好助右衛門様御同心衆杉山勘兵衛様・保田伴内様・渡辺喜太夫様・後藤村右衛門様、通旅籠町より浅草見附前、右之衆中様御固被成候、尤平生躰商売仕、唐人通り候節計此時ハ人扨仕候



(口絵4参照)

同十月六日朝鮮人御老中様江廻り候ニ付、常盤橋左右より大伝馬町式丁目御固与力衆磯貝次太夫様・吉田十郎兵衛様御同心衆村田忠太夫様・飯尾喜太夫様・速水次郎兵衛様・寺沢所左衛門様、浅草見付より通旅籠町迄御固与力衆三村伝兵衛様・原半左衛門様御同心衆清水安右衛門様・佐

野幾右衛門様・前波甚助様・太田十五左衛門様右之通ニ而本町より見附  
前迄御固、昼七時前ニ通り、夜五時帰ル、尤平日之通ニ而朝鮮人通り候  
節計人払

同十月七日 御三家様廻り候ニ付右同断、御固与力衆大伝馬町式丁目よ  
り常盤橋左右迄高橋吉太夫様・上坂安左衛門様御同心伊藤儀左衛門様・  
杉浦儀兵衛様・石沢忠藏様・五十嵐佐助様、浅草見付より通旅籠町迄御  
固御与力衆三好助右衛門様・中村三左衛門様御同心衆菱田兵助様・間米  
弥右衛門様・篠原佐右衛門様・横川武右衛門様、本町より見附前迄右衆  
中御固被成候、尤昼九時通、七時帰ル

同十五日帰国、昼時江戸発足品川泊、依之御固、<sup>御</sup>至着之通御先手組より  
赤井團八様・前野平馬様其外御同心衆山田三郎右衛門様・桑原四郎左衛  
門様式丁目より本町四丁目迄御固、同上坂安左衛門様・速水次兵衛様・  
橋本喜兵衛様油町通り旅籠町迄、尤来朝之通名主・月行事麻上下、町人  
羽織袴、店并幕屏風有合、勿論人留、人馬之儀者請負人付候由ニ而此方ニ  
而不相勤候、九年以前寅年来朝之節者馬百疋人足百人被仰付候由、其時  
者浅草ニ会所建、外之寄セ人馬等世話此方江被仰付候由、此度者一切構不  
申候

一、朝鮮人帰国之節、信使小性忝人急ニ馬上ニ而相煩、鞍坪ニ取付危キ躰  
ニ相見候処、朝鮮人之内より医師忝人出、馬上より抱下シ候得者  
刹死〔殺ス〕いたし候ニ付、赤地之練薬を取出し、日本人之童便を取、とき  
候而五盃程給させ候へハ早速快気、尤御固御与力三村伝兵衛様色々々  
御世話被成、名主伊左衛門殿立合、夫より乗物ニ而品川迄御送り候  
由、信使諸人ニ向御礼有之候